

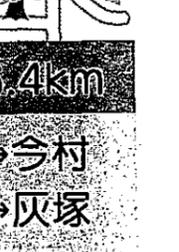
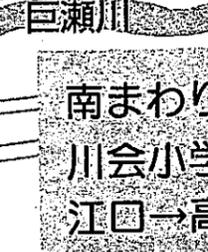
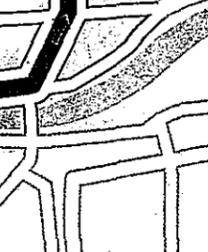
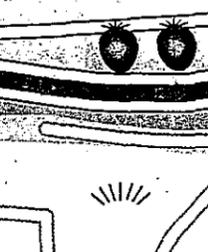
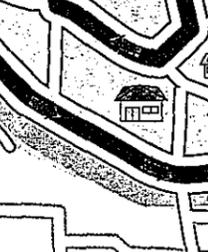
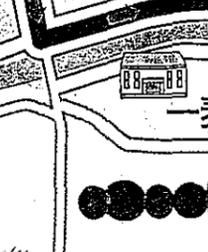
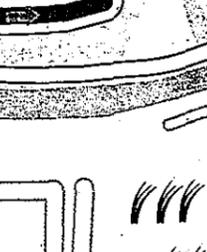
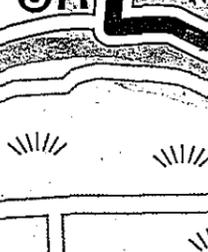
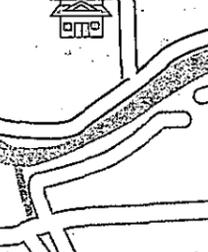
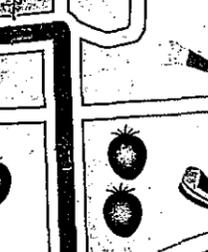
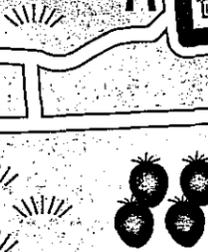
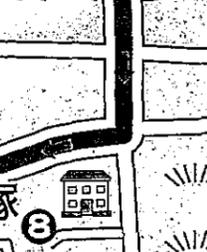
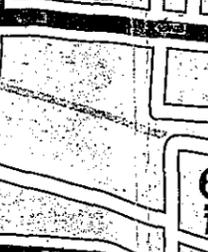
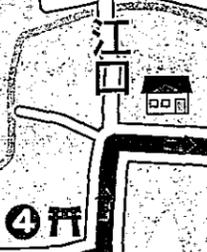
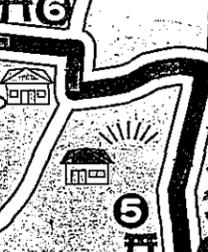
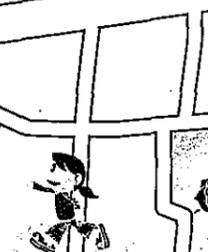
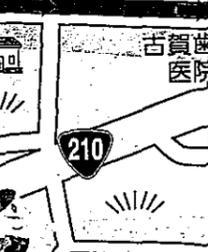
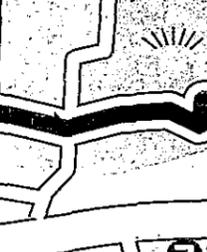
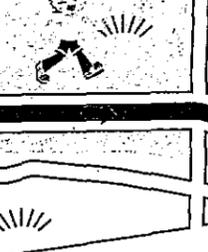
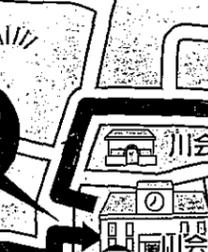
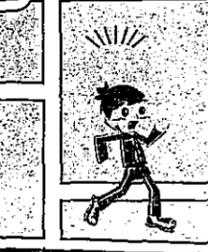
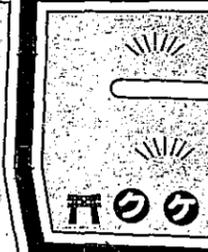
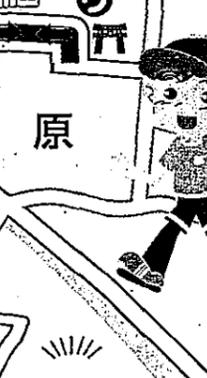
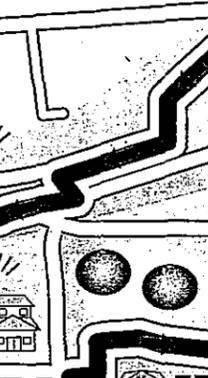
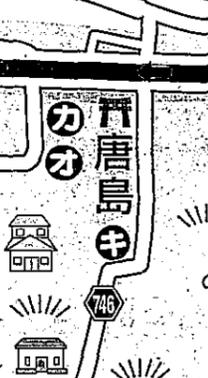
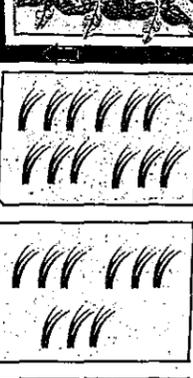
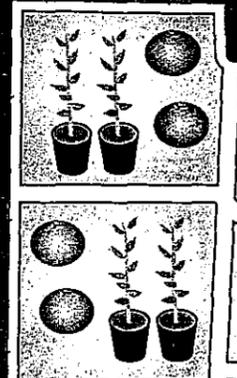
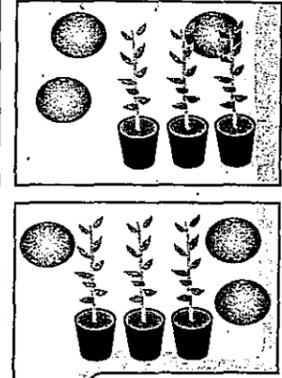
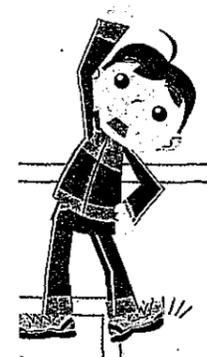
歩き・ふれあい・知り合う・そして今と昔

川会校区ウォーキング 散策マップ

北まわりコース 6.5km
川会小学校→門ノ上→原
唐島→牧→川会小学校



クボタ歴史資料館



南まわりコース 6.4km
川会小学校→馬渡→今村
江口→高嶋→志床→灰塚
熊田→川会小学校

㊦ 門ノ上の日吉神社



創立は養老元年(717年)。日吉神社は養老年間、筑後守道君首名の勸請により創建され、御祭神を大山咋命と申し上げた。天正年間に大友軍の戦禍に会い、社殿を焼失、社領は没収される。後、現在の社地となった。日吉神社の境内には、①皇大神宮②天満宮③八幡神社④王子宮⑤阿志岐神社の五つの社があります。昔から、「堂ごもりの米ぬぎ歌」が言い伝えられています。毎年、9月夏祭り(よど)、11月に堂ごもり、12月に秋祭り(座)が行われています。

㊧ 道君首名の古碑と伝えられる門の上の石碑



昭和27年(1952年)刊行の浮羽古文化財保存会誌「宇沢波(うきは)」第1号に、「道ノ君首名ノ墳」として紹介されています。道君首名は、和銅6年(713年)、筑後国の長官(守)として、赴任した天下りの中央官人であり、名前がわかる筑後国最初の国司であった。刑部親王、藤原不比等などが行った大宝律令の選定に加わっている。大宝元年(701年)6月、飛鳥四大寺の一つ大安寺で僧尼令を説いている。和銅5年(712年)9月には、暹新羅使となる。帰国後、筑後国守に任ぜられた。

㊨ 原の天満宮

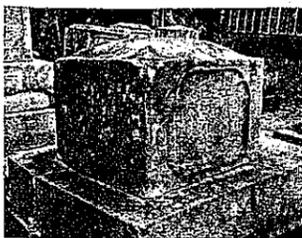


ります。

創立は、江戸時代。毎年、9月、12月に祭礼が行われ、特に9月の夜渡祭りは、赤鬼・青鬼・獅子が出て各戸を廻ります。

近隣の子供達が集まってにぎわいます。赤ちゃんの頭を獅子にかんでもらうと、病気がかからないという言い伝えがあります。

㊩ 原 宝曆一揆、亀山村伴蔵の墓

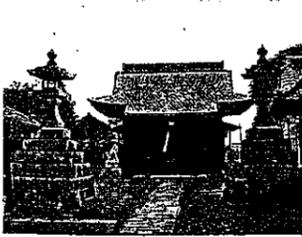


って戦った庄屋、亀山村の田中伴蔵は、その一人である。

1754年、過酷な増税により有馬藩と浮羽郡をはじめとする農民がはげしくかけあい、日本有数の大一揆となった。

一揆は成功、しかし首謀者は、久留米津福処刑場で処刑された。農民の苦しさを訴え、先頭にた

㊪ 唐島の素盞鳴神社



12月には、収穫感謝まつりや、しめ縄の張替え等を行い世話する人の交代の儀式、宮座が集落の役員により行われている。

創立は江戸時代。7月には、天満宮様があり参拝者にお菓子の諸接待がある。9月の夜渡では、豊作を祈願するまつりがあり、昔、家々ではよど饅頭をつくりお供えをして、夜は芝居や浪漫映画などが行われていた。現在は、若い人が中心となり夜店やイベントが開催されている。

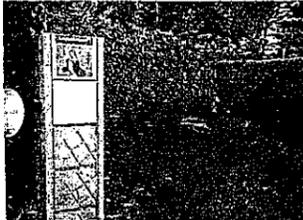
㊫ 唐島の川ん殿様



唐島素盞鳴神社本殿横に祀られている木像は、地元では河童「川ん殿様」と呼ばれています。像はやせ細って目が落ち窪んでおり、剃髪した頭は平清盛に似せられている九千坊に似ており、水神信仰が河童と平家伝説と複合した後の時代(1700年代初め頃)の作ではないかといわれる。

5月には、川ん殿様祭礼があり、川ん殿様を管理してある世話人が、八十八夜の夕刻、祠に提灯を灯し、お参りの人々にお接待をします。

㊬ 唐島の俳人 湖白庵諸九尼



俳人、湖白庵諸九尼は、通称を「なみ」と言う。

正徳4年(1714年)竹野郡唐島村の庄屋、永松八郎右衛門の4女として生まれ、同族の中原村庄屋、永松万右衛門に嫁ぐ。

宝暦12年(1762年)に夫を亡くし、その百ヶ日に剃髪。安永7年(1778年)ころに京都を去り直方に移住、門人の指導にあたる。天明元年(1781年)68歳の生涯を終える。

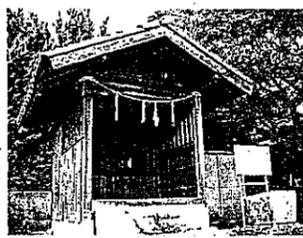
㊭ 牧の郷社八幡神社



1月初詣、7月に茅の輪くくり、9月に夜渡、10月に御願成就、12月に師走の大祭が行われている。

創立は、平安時代、天慶7年(1066年前)竹林の中の八幡大菩薩に起源する。有馬藩、有馬忠頼氏により、明暦2年(1665年)神殿・拜殿が造営され、250年間有馬藩社に。昭和16年、郷社となり昭和45年、現在の神殿と鉄筋コンクリートの拜殿が完成。毎年

㊮ 牧の如意輪観音像(久留米市指定有形文化財)



年(1835年)に、庄屋井上市郎平永重らにより再彩色なされた事がわかる。像自体は、室町時代の作と考えられる

もとは菅原の伯東寺に安置されたものとされ、現在地に移転した年代は不詳。牧八幡神社境内に祀られ、今も地域の人たちの香花がたえまません。全長115cm、巾55.4cm(膝張)。台座裏に補修銘が残り、明和7年(1770年)に彩色、天保6

㊯ 川会小学校



の時に自分でつける「しこ名」を、6年間名乗るというのも伝統になっています。平成21年に創立130周年を迎えました。

明治43年、浮羽郡では初めて「旌表旗」が授与されました。当時、児童の出席、教育内容が優れた学校に県から贈られたものです。

川会小の伝統行事として11月には、相撲大会があります。全校生徒で1ヶ月をかけて総当り戦を行い、祖母参観日の日が千秋楽です。1年生

㊰ 馬渡天満宮

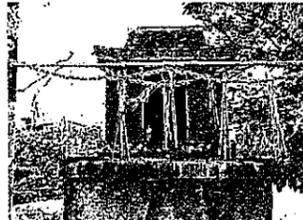


12月に祭日となっています。

建立は文化7年(1810年)平成8年4月に改築された。祭神は、菅原道真(845~903)で平安時代の学者・政治家。道真の死後、993年正一位太政大臣を贈られた。

民間では、京都北野の天満宮に天神として祭られ、以後文道の神とあがめられた。毎年、1月に年始祭、9月に祭日、11月に堂ごもり、

㊱ 馬渡の祇園様



のは、大和との関係の深さをしめす。毎年、7月14日の祭日で、15・16・17の3日間堂ごもりとなっています。

祭神は、素戔鳴尊(すさのおのみこと)で日本神話中の一神格。(古事記)では速須佐之男命、(日本書紀)では素戔鳴尊とするしている。スサノノミコトは、出雲の主神である。ただし、出雲の神の名には「神」とし、大和では「命(尊)」とするが、この神がとくに「尊」とある

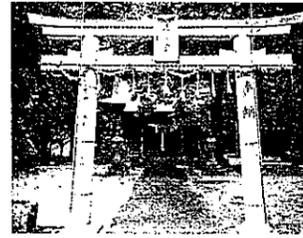
㊲ 今村徳満神社



地に移転新築しました。毎年、7月に輪くくり9月によど、御願成就、12月には秋祭りが行われています。

今村徳満神社は、竹野郡(ごおり)今村産神(うぶすながみ)徳満宮と言われていた。宝徳元年(1449年)、川辺に一間四角の社(やしろ)を建て、徳満宮と奉った。災害により拜殿の再建を、安政5年(1858年)に行い、138年を経て巨瀬川の河川改修計画に伴い、平成8年(1996年)現在

㊳ 江口の天満神社



ました。毎年、9月によど、11月に堂ごもり、12月に祭礼が行われています。

御祭神、菅原道真公を祀る神社とし、寛延年間1748年には、すでに現存せる社にして、明治6年3月に村社に列せられました。石燈籠一対は、弘化二年(1845年)8月に建立され、狗犬一対は、弘化四年(1847年)8月に建立され

㊴ 高嶋の天満宮



創建は不詳ですが、明治23年12月に再建されました。毎年、9月によど、12月には祭礼が行われています。

㊵ 志床の熊野神社



毎年、9月によど、12月には祭礼が行われています。

創立は江戸時代、寛文10年(1670年)「久留米藩社方墓」によれば、春日大明神、熊野権現、住吉大明神の木像三体が納められている。横の社には、末社申谷(さるわか)大明神の河童の像が安置されている。

㊶ 志床のカツパ



何かを見据える。大きな両目が精彩を放っている。

この像は、両足を平行にかなり大きく開いて直立する。両手を腰にあてて左右に両肘を張った姿勢をとり、オカツパを思わせる髪型をした。頭の頂には窪みがある。そして、歯をくい縛って、大きく左右に開いた口と眉をしかめつつ、

㊷ 灰塚の熊野神社・徳満神社・奉納観音霊場順拝宮



東の方には、中央に熊野神社、右側に徳満神社、左側には奉納観音霊場順拝宮があり、熊野神社では現在も年1回、田植えが終わった7月に集落の方全員が、奉納品一品を持ち寄り、宮司さんを招き無病息災及び五穀豊穡を祈願しています。